

この空の下で
生きていく

～世界でたった一人のあなたへ～

新たな いのち 生きて

今、この瞬間にも、新しいいのちが誕生しています。生まれてくれてありがとう。あなたのいのちは、世界に一つだけ。あなたには、自由に夢をおいかけて、幸せに生きる権利があるのです。そして、生きることのすばらしさを、わたしたちに教えてくれる、かけがえのない存在です。未来を生きる大切ないのちを、みんなで見守っていきませんか。

と

いく





「由貴、ありがとう」

呉市立二河中学校 1年 石原 謙一

今年の夏、母は「生んでくれて、ありがとう」という本を買って来た。母は、その本を読んでから、ぼく達兄弟に読むように勧めた。ぼくは、めんどくさいなあと思いながら本を開いた。その本は、やさしい色づかいの美しい絵本だった。内容は障害を持って生まれた赤ちゃんが、その母親に対して勇気を与えてくれるような本だった。ぼくは、母がどんな思いでこの本を読んだのだろうと思った。

ぼくには、障害のある妹がいる。その妹は由貴といって、ぼくが小学校1年生の時、生まれながらに腎臓に病気を持って生まれて来た。そして、生後1か

月余りで手術をし、次の日から悪性高熱で危とく状態になった。胸には心電図、腕には点滴の針、鼻にはミルクを飲むための管がついていた。それから8か月、病気と戦い由貴はやっとぼく達の家へ帰って来た。ぼく達はうちのお姫様だと思った。泣き声も小さく、となりの部屋にいと、由貴が泣いてもわからない。息をしているのかどうかは、指を鼻のところへ持って行って、やっと分かるくらいだった。それから1年、由貴は何度も入退院をくり返しながら、生きてきた。また、1年後病院へ通うのが大変なので、病院の近くへ引越した。

ほう事も座る事もできない由貴のため、それから3年間、毎日母はリハビリに連れて行った。由貴もがんばってやっとはって動けるようになった。でも座る事も歩く事もできない。でもぼく達はうれしかった。

由貴は悪口も言わない。いじ悪もしない。いつも、ぼく達を見ると「ハーチャン。」と笑顔で両手を広げ、抱っこをせがむ。ほっておけないほどの笑顔で甘いかわいい声で呼ぶ。由貴は、点滴に行っても泣き声をたてない。点滴が終わるまで針を刺すのに何度失敗して

もがまんをする。五度も六度も刺すと、由貴の目から大粒の涙が流れる。でも、大きな声を出す事はしない。点滴の針がささると時々押し殺したような声を出して泣く。普段は大きな声を出して泣けるのに、どうしてかなあと思う。それは由貴なりの思いやりや知恵かなあと思う。母さんを泣いてこもらさないため。看護婦さんにきらわれないようにするため。みんなにかわいがってもらうため。由貴も生きるための知恵を働かせているのだ。

由貴は、ほかの子と同じ事はできないけど、少しずつ成長している。ほかの

子なら座る事も歩く事も時期がくれば
教えなくてもできる。でも、由貴には、
すごい努力と忍耐が必要だ。だから、
由貴は忍耐強い。あたり前にできること
も、由貴が初めてやれた時、その喜び
は何ものにもかえがたい。ティッシュを
箱から出し、ばらまいた時も、テレビの
電源を入れるのに、4か月練習してでき
た時も、フォークにさした食べ物を自分
の口へ入れられた時も、家族みんなが
手をたたいて喜んだ。

涙がでるほどうれしかった。これは、
ほかの人にはわからない感動だと思った。

由貴はぼく達家族に本当の愛や命
のすばらしさを教えてくれる。「人間だ
れもが何かのハンディキャップを抱え
ている。……完全な人なんかいない。
人はみな何かしらのハンディキャップ
があるからこそ、お互いに気付き、学べ
ることがたくさんある。」と本にあった。
ぼくは、これだと思った。由貴はみんな
に生きること、愛すること、命のすばらしさ、
不思議さを教えてくれる。

今ぼくは言いたい。

「由貴、生まれてくれてありがとう。」と。



「すてきな命」

呉市立宮原中学校 2年 楠 美月

「死ねや!」

「おまえが死ね!」

毎日のように「死ね」という言葉を聞く。聞かされたたびにずっと嫌だなあ、と思っていたが、いつも聞き流していた。想良くんと会うまでは。

「かまちゃんの赤ちゃん、入院してるんだって。お見舞いに行こう。」

と、帰ってきた母が言った。

「ええっ!」

かまちゃんは小さいころから知り合いで、大好きなお姉さんだった。びっくりしたし、心配で、すぐに病院に行った。

病室に入ると、小さくてかわいい赤ちゃんがベッドに寝ていた。でも、そんな小さい体に、何本もの管が取り付けられていた。

「今日はクリスマスイブだから、赤と緑の帽子なんだよー。」

かまちゃんが笑いながら言った。そして私は、赤ちゃんのことを聞いた。

赤ちゃんは予定よりもずいぶん早く産まれた。だから体が小さすぎて、ずっと入院していた。元気になって退院していたが、急に体調が悪くなり、入院したのだ。脳こうそくて、あと3時間の命と言われたが、なんとか年は越せそう、という状態だった。

涙が出た。びっくりした。こんなに小さいのに、一生懸命生きようとしている。とてもすてきな命だと思った。

「名前、なんていうの?」

「そらくん。想像の想に良いで想良だよ。」

「いい名前だね。」

母が言った。

お正月、想良くんへのお年玉を持ってお見舞いに行った。想良くんの写真入りの年賀状をもらった。とてもかわいかった。「年を越すことができてよかったねえー、想良。」

かまちゃんが言った。私はその時、初めて「あけましておめでとう」のもつ、本当の意味がわかった。無事に年明けを迎えることができて本当によかった。そんな気持ちが入められた言葉だったのか、と思った。

それから一、二度お見舞いに行ったが、学校が始まったので行けなくなった。2週間ほどたって、ふと、お見舞いに行きたい、と思った。しかし、ちょうどかぜをひいてし

まって、行くことができなくなった。次の休みに行こう、と思っていたとき、母から電話がかかってきた。

「美月、落ちついて聞いてね。」

ドキッとした。まさか……。

「想良くんがね、亡くなったんだって。」

「え……。」

あまりに急すぎて、頭がまわらなかった。受け入れるための器ができていないまま、その事実が入ってきたので、受け入れられなかった。

「今日、お通夜があるよ。」

しだいに涙と悲しみがこみ上げてきた。それからずっと泣き続けた。

そしてお通夜。それまでにしっかり泣いていたので、涙は出なかった。しかし、

想良くんのお父さんがあいさつをした時、やっぱり涙が出た。かまちゃんもお父さんも、泣きはらした顔だった。私は他人で、しかもたった3、4回会っただけなのに、悲しくて悲しくてしかたがなかった。それなら、自分の子供を亡くした二人は……と考えると、自分だったら何もかもどうでもよくなり、どうしようもなくなると思った。とてもこわかった。

お通夜が終わった後、想良くんの所へ行った。お通夜に行く前に想良くんがさびしくないように買ったおもちゃと折り紙を、ひつぎの中に入れた。私は、最後に、かぜをひいたとはいえ、お見舞に行けなかったことを、とても後悔した。

想良くんのことがあって、私は生と死について考えた。私が今ここに生きることが

できているありがたさ。「死ぬ」とはどういうことなのか。「死ぬ」とはどういうことなのか……。その人一人が亡くなっただけで、おおぜいの人々が悲しみ、苦しむ。それを思うとこわくなる。「死ぬ」と言うことは、人が苦しむこと、人がいなくなること、さらに周りの人が悲しむことを願うということになる。こんなにひどい言葉はないと思った。絶対に気軽に、あたりまえのように出していない言葉ではない。

最近、私達は、命の大切さを考えなすぎだと思う。生まれてこられたありがたさ、生きることができているよろこび、「死ぬ」ということの重さ、そういう、一番大切なことを、想良くんが教えてくれた。

想良くん、ありがとう。



いのちの誕生と成長を見守る日々。

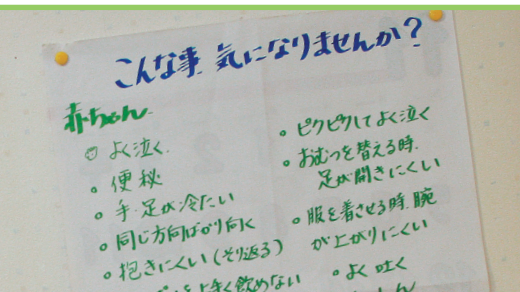
無事に生まれれば、みんな幸せ

「一つのいのちが、この世に生まれる。それがどれほど大変なことか、お産に立ち会うとわかりますよ」。福山市で『にしだ助産所』を営む助産師の西田啓子さんは、2003（平成15）年の開業以来、100人近い赤ちゃんの誕生を介助してきました。

助産師はつねに、赤ちゃんとお母さん、二つのいのちを同時進行で守らなければなりません。それだけに、母

子ともに無事であることが、いちばんの喜び。「生まれた、泣いた、出血なかった。それを確認した瞬間、毎回ほっとしますね。どんなお産にも、忘れられない家族のドラマがあります」。

産後のお母さんと赤ちゃんを見守ることも助産師の仕事。「子育ての悩みは人それぞれ。私自身も話を聞いてもらうことで救われた経験があります。一緒に解決方法を見つけていきましょう」。



いろいろなお産があっいいい

助産師として自然分娩を手助けしている西田さんですが、所内出産はあくまでも選択肢の一つだと考えています。「病院でも助産所でも自宅でも、生まれる場所は赤ちゃんが選んでいる

んです。大切なのは、お母さんが納得できる方法でお産をすること」。いろいろなお産、いろいろな子育てを応援するために、西田さんは広島県の数少ない助産所の灯を守り続けています。



助産師 西田 啓子さん

福山市在住。にしだ助産所代表。1957(昭和32)年生まれ。川崎医療短期大学第一看護科卒、京都大学医療技術短期大学部助産学特別専攻科卒。福山市民病院に7年間勤務した後、子育てに専念。自宅出産を介助したことが転機となり、2003(平成15)年にしだ助産所開設。福山助産師会会長。思春期保健相談員。